

# 「アカシアの家 10 周年記念誌」発刊にあたって

「その人らしい生活を支えあう」から

「その人らしい生活と人生をつなぐ」へ発展・深化した 10 年

---

認知症対応型共同生活介護・アカシアの家が開設して 10 年を迎えた。この平成 25 年 7 月、医療法人アカシア会の 6 カ所目の介護事業所、軽度認知症デイサービス・ギャラリー喫茶「和顔施（わけんせ）」が開設した。これで、軽度から重度までの認知症の方の介護事業所が揃った。住みなれた町（三郷市・早稲田地域）で暮らし続けられるように、切れ目のないアカシア会の認知症ケアネットワークが形成された。アカシアの家は、当法人の介護事業の原点である。

アカシアの家の基本理念は、開設準備メンバーの中で、何回も討論し書き換え、作り上げてきた。それは「認知症になっても住みなれた地域で普通に暮らし続ける」ために必要な場とケアの提供であり、「その人らしい生活を支えあう」との理念を核心としていた。この 10 年の実践で、この理念は「その人らしい生活と人生をつなぐ」へ発展し、深化させてきた。アカシアの家入居者の皆さんは、ケアの支えの中で、自分らしい生活を取り戻し、自分らしい人生の旅路の主人公に復帰された。その人らしく輝く生涯を、家族や地域のささえも得て、生き抜いて来られた。

何回もコンサートなどを堪能した元医師の方、外出を繰り返す自由を満喫した元給食調理員さん、オムツ強制を止めトイレで用足しできてユーモアある紳士に戻れたお爺さん、等々。枚挙のいとまもないほど、アカシアの家では、その人らしい生活を取り戻し、認知症が進んでも自分らしさを貫いて、その人らしい人生・生涯につなげてきた。

我々は、入居者さんたちの生き方から、必要なのは安心できる環境であり、ともに歩むケアであり、生活とともに人生をささえる観点と立場が重要だと学んだ。過去・現在・未来を「つなげる」支援、ケアスタッフと医療と地域とで「つなげる」支援がその真髄だと学ぶことができた。この記念誌は、入居者の皆さんの生き方（生活と人生）と共に歩もうと努力した認知症ケア実践の積み重ねと、地域と家族の皆さんの様々なご協力の上に出来上がったものである。心よりの感謝を申し上げます。

平成 25 年 12 月 15 日  
医療法人財団アカシア会理事長  
クリニックふれあい早稲田院長

大場 敏明